

今年の新井寺の梅

マツイレイコ撮影

平成 25 年 №44
春ひがん号

あきばさん

発行所
秋葉山 新井寺
272-0144
千葉県市川市新井
1丁目9の1
でんわ047-357-8319
FAX 047-357-8399
mail: info@shinseji.jp
http://www.shinseji.jp
郵便振替 00150-2-282968
発行人 新井寺

暑さ寒さも彼岸まで

当山住持

ひとしお寒かった冬もようやくやぐ峠を越え、待ち遠しかった春彼岸の訪れです。今年の冬は、東京でも何度か雪景色となり、雪国寒冷地では歴史的な大雪や大寒波の災害に見舞われた年となりました。

特に、この三月十一日は東日本大震災から丸二年の歳月が過ぎましたが、被災地の多くの皆様方には、物心両面にわたって復興はまだまだ遠く、なかなか思うにままならない毎日をお過ごしのこととお察し申し上げます。今年も、震災が発生した三月十一日午後二時四十六分には、全国各地で犠牲となられた皆様への様ざまな追悼の法要や行事が行なわれました。東京国立劇場で行なわれた追悼式では、天皇陛下が次のような「おことば」を述べられています。

二年前の今日、東日本を襲った巨大地震とそれに伴う大津波により、二万人を超す死者・行方不明者が生じました。震災後に訪れた被災地では、永年にわたって人々が築いてきたふる里が痛々しく破壊されており、被災者の悲しみは、いかばかりかと察せられました。一方、この厳しい状況の中、被災地で、また、それぞれの避難の地で、気丈に困難に耐え、日々生活している被災者の姿には、常に深く心を打たれ、この人々のことを、私どもはこれからも常に見守り、この苦しみを少しでも分かち合っていくことが大切だとの思いを新たにしています。

私たちも、お互い日本人の一人として、天皇陛下の「おことば」を謹んで拝受し、物心共にさらなる支援を行なっていく心を新たにすると所です。

さて、新井寺では昨秋、檀信徒の皆様二十名と仏教の源 お釈迦様ご生誕の地「ルンビニ」をはじめ、ネパールの仏蹟を報恩参拝しました。本年は、曹洞宗のご本山である福井県の大本山永平寺に参拝させていただく予定です。一人でも多くの皆様方に参加・参詣いただき、共に功德法悦に浴したく、ご案内とお誘いを申し上げます。

合掌

大本山永平寺参拝の旅のご案内

昨秋は、念願がかない、お釈迦さまご生誕の地「ルンビニ」やネパールの仏蹟を参拝することができました。本年は、曹洞宗の両大本山のひとつ、大本山永平寺をはじめ、北陸の曹洞宗にゆかりの深いお寺をたずねる旅をすることになりました。本号では、今回参拝するお寺をご紹介します。

○ 大本山永平寺

福井県吉田郡永平寺町

曹洞宗には、ふたつのご本山（「両大本山（りょうだいほんざん）」）があります。道元禅師様が開かれた「大本山永平寺（福井県）」と瑩山（けいざん）禅師様が開かれた「大本山総持寺（横浜市）」です。



大本山永平寺山門・・・永平寺での修行はこの山門に立つことからはじまります

大本山永平寺は、寛元二（一一四四）年に、道元禅師様が「傘松峰 大佛寺（さんしょうほうだいぶつじ）」を開かれたことにはじまります。その後、現在の「吉祥山永平寺（きちじょうざんえいへいじ）」と改められました。「永平」という名前は、はじめて中国に仏法が伝わったときの日本の元号に由来します。さらには、仏道が人びとの「永遠の平和としあわせのもと」であるという道元禅師様のお心によるものといわれています。永平寺では、開創以来七五〇年以上が過ぎた現在も、「日本曹洞第一道場（にほんそうどうだいいちどうじょう）」として、道元禅師様より連綿と伝わる教えにもとづいた厳しい禅の修行が行なわれています。約十萬坪の広大な境内には、樹齢七百年といわれる老杉に囲まれて、修行の中心となる「七堂伽藍（しちどうがらん・山門・仏殿（ぶつでん）・法堂（はつどう・本堂）・僧堂（そうどう）・大庫院（だいくいん・修行僧の台所）・浴室・東司（とうす・お手洗い）」

など、七十以上の建物が静かにたたずんでいます。

今回の団参では、大勢の修行僧の読経の音が響く本堂での朝課（朝のお勤め）におまいりし、ご先祖さまの追善供養もお勤めいただきます。凜とした空気の中の、何とも荘厳な雰囲気のご本山のご本堂での法要は、心に残るありがたいご供養になると思います。また、ご本山の和尚様のご法話を拝聴し、坐禅もさせていただく予定です。食事は、修行僧がまごころを尽くしてつくった精進料理を禅の食事作法にしたがっていただきます。

○ 御誕生寺（ごたんじょうじ）

福井県越前市

御誕生寺は、瑩山禅師様がお生まれになった街に建てられたお寺です。数十年前から「瑩山禅師の御誕生寺」建設の計画が試みられていました。平成十一年に、地元篤信者より広大な境内地の寄進を受け、境内整備や仮本堂・庫裡の建設がはじまりました。平成二十一年六月には、本堂落慶法要が盛大に行なわれました。現在は「専門僧堂（せんもんそうどう・修行道場）」の認可も受け、鶴見の大本山総持寺を引退された板橋興宗禅師様を中心に、全国から集まった約三十名の僧俗が、

坐禅と托鉢・作務の修行生活を送っています。

○ 永光寺 (ようこうじ)

石川県羽咋 (はくい) 市

永光寺は、瑩山禅師様の開山 (お寺を開くこと)、示寂 (じじやく・亡くなること) といわれています。正和元 (一三二二) 年に、瑩山禅師様が篤信者から土地を寄進されたことにはじまります。元亨四 (一三二四) 年にはご本堂が竣工。その後、応仁の乱 (一四六七―一四七七年)・戦国時代天正年間の兵火で伽藍を焼失するも、江戸時代に前田利家によって再興されました。現在の伽藍は、寛永年間以降に再建されたもので、「永光寺様式」



永光寺「五老峰」・・・曹洞宗の礎を築かれた5人の禅師様のご遺物が納められています

として曹洞宗伽藍構成のひとつの典型とされています。

瑩山禅師様は、正中二 (一三二五) 年に亡くなるまで、「衆生済度 (生きとし生けるすべてのものを迷いや苦しみから救うこと)」の誓願を実践する道場として、ほんものの仏道修行と信仰の道場として、永光寺の発展に尽力なさいました。特に、曹洞宗の礎を築かれた如浄禅師・道元禅師・懐辨 (えいしょう) 禅師・義介 (ぎかい) 禅師・瑩山禅師の五人の木像をおまつりして開山堂「伝燈院 (でんとういん)」をつくり、その奥に五人のご遺物 (遺品) を納めて「五老峰 (ごろうほう)」と命名されました。

○ 大本山総持寺祖院

石川県輪島市門前町

大本山総持寺祖院は、現在 鶴見にある大本山総持寺がもとあったお寺です。元亨元年 (一三二二) 年に瑩山禅師様が開創されました。明治三十一 (一八九八) 年四月十三日に火災に遭い、伽藍の大部分を焼失してしまいました。この火災を機に、明治四十四 (一九一) 年に現在の鶴見にご本山の機能が移され、鶴見の総持寺を「大本山総持寺」、能登の総持寺を「大本山総持寺祖院 (祖院)」と呼ぶようになりました。また、祖院は平成十九年三月

の能登半島地震で甚大な被害を受けました。平成二十一年に禅修行の要となる坐禅堂が再建され、大祖堂 (だいそどう・本堂) は二十五年完成を目標に再建中です。

永光寺の「五老峰」の裏から祖院まで「峨山道 (がさんどう)」といわれる十三里の山道があります。実際にこの道を駆け抜けるには、丸一日かかる山道です。二代目の峨山 (がさん) 禅師が永光寺住職を兼任していたころ、毎朝未明に永光寺の朝課を勤めてからこの道を走り抜け、総持寺 (祖院) の朝課に駆けつけていたといわれています (峨山往来・がさんおうらい)。總持寺 (祖院) の朝課では、「大悲心陀羅尼 (だいひしんだらに)」というお経をとともゆつくりと読んで峨山禅師をお待ちしていたといえます。この行事は、現在の大本山総持寺でも受け継がれています。

大本山永平寺参拝の旅

九月十六日 (敬老の日) ～ 十八日 (水)

二泊三日の全行程バスの旅です

旅費 五万円

◎ 詳細は 別紙をご参照ください。

◎ ご不明な点などは、お気軽におたずねください。

みなさまのご参加をお待ちしています

おしゃかさまの誕生祭

「ブツダ・ジャンテイ」

お釈迦さまは、「インドのお方」という印象が強いのですが、お生まれになったのは、ネパールなのです。

日本では、お釈迦さまのご生誕を、四月八日（お釈迦さまの誕生日）に「花まつり」としてお祝いしますが、インドやネパールでは、五月の満月の日に「ブツダ・ジャンテイ」という誕生祭が行なわれているそうです。日本でも、毎年、駐日ネパール大使館とネパール国際フォーラムジャパン（NIFJ）共催のもとに、日本で暮らしているネパールの方々による「ブツダ・ジャンテイ」が開かれています。

八回目となった昨年は、新井寺を会場に「ブツダ・ジャンテイ」が行なわれました。スマナサーラ長老をはじめ、オレンジ色の法衣にエンジ色のお袈裟をかけたテラワダー仏教の和尚さんや日本で暮らすネパールのみなさんなど約百名が参加し、にぎやかな誕生祭となりました。昨年に続き、新井寺において「ブツダ・ジャンテイ」が開かれることになりました。今年もまた、スマナサーラ長老にお会いできるかもしれません。昼食には、カレーライス

などのネパールの食事もいただくことができるそうです。興味のある方、参加を希望される方は、お気軽におたずねください。みなさまのご参加をお待ちしています。

「ブツダ・ジャンテイ」

五月十八日（土）新井寺において
午前十時ころから三時ころまで
会費 千円（昼食代をふくむ）

ホームページが

リニューアルしました

昨秋よりリニューアルの準備をしていたお寺のホームページが、ようやく公開されました。

「やさしく、みやすく、親切に」をコンセプトに、お寺のこと・行事のこと・坐禅会や写経会や梅花講のこと・・・、お寺をみなさまの身近に感じていただけるような情報発信につとめてまいります。ご法事の申込みや坐禅会などの日にちの確認も、ホームページから行なうことができます。どうぞ、ご活用ください。よろしくお願いいたします。
<http://www.shinsei-ji.jp>

編集後記



先日、久しぶりにお会いした和尚さんに、「量孝さん、大きくなつたわね」と言われました。前号の『あきばさん』に載っていたわたしの写真を見てそうお感じになったそうです。その和尚さんご縁をいただいたのは、十二年前のことです。二十歳を過ぎたばかりの学生のときでした。そのころといまとで、変わったと感じることがあります。それは修行に対する考え方です。常に力いっぱい走り続けることが修行だと思っていました。けれども、それがすべてではないということに気がつきました。いまのわたしが大事にしていることは、「ていねい」ということです。今春、修行道場をおいとまして九年が過ぎました。副住職を拝命し、お寺の中でも外でも、いただく仕事の量も責任も重くなってきたように感じます。その中で、いかに「ていねい」ということを積み重ねていくか。ものにも人にも、「まあいいや」という思いをおこすことなく、「ていねい」に、真剣に向き合っていくということ。それが、いまのわたしの課題です。その課題を消化できているか否かをほんとうに知っているのは、わたし自身なのだと思います。自分をごまかさず、甘やかさず、課題に取り組んでいこうと思います。